

研究活動報告(平成二十八年一月〜十二月)

〔学会〕

三月二十日 創価大学『日本語日本文学』第二十六号 発行

十月二十一日 日本語日本文学会(学生の部) 十三時〇五分〜 中央教育棟A B一〇三教室

十一月十八日 日本語日本文学会 二〇一七年度年次大会

十五時〜 中央教育棟A W六〇八教室

十二月二日 懇話会 十六時四〇分〜 中央教育棟A W一

二二一教室「日本語検定一級に挑戦―自分の日本語を見直そう―」大塚望教授

〔会 員〕

◇蓮沼昭子教授◇

三月二十日 論文「認識的モダリテイの婉曲用法―『ダロウ』はなぜ婉曲用法をもちにくいか―」『日本語日文学』第二十六号 創価大学日本語日本文学会

三月二十六日 論文『ソウダ』と『ンダッテ』―伝聞と引用の間―『日本語教育連絡会議(2015) 論文集』Vol.

28 日本語教育連絡会議事務局2015 (28回) カー

ロリ・ガーシュパール・カルビン派大学(ハンガリー)

八月二十六日〜二十七日 第29回日本語教育連絡会議に

出席。於アンドリツチ研究機関(ポスニア・ヘルツェゴビナ)、主催ベオグラード大学(セルビア)

八月二十六日 研究発表「認識的モダリテイの婉曲用法―

カモシレナイとヨウダ・ミタイダ」第29回日本語教育連絡会議

一月〜六月 学会誌『日本語教育』の査読協力者として投稿論文の査読を担当

七月〜十二月 日本語教育学会審査・運営協力員(任期一年)の委嘱を受け、『日本語教育』への投稿論文の査読を担当

◇山本忠行教授◇

一月一日 「レポート添削だより」学び、考え、そして表現する―」『学光』第四十巻第八号、創価大学通信教育部

三月一日 「ブックスクウェア」英語学習は早いほど良い

のか』『学光』第四十卷第十号、創価大学通信教育部
六月四日 講演「学習者が続けたくなるような授業とは」

日野国際友好クラブ

六月二十九日 編著『英語デトックスー世界は英語だけじゃ
ない』くろしお出版（英語は何をもたらしたのか、
「平和と幸福のための言語教育を目指してー英語を毒
にしないためにー」の二章を執筆）

八月一日 「自立学習入門講座十五」『学光』第四十一卷
第五号）

八月七日 論文「言語による価値創造を目指して（一）ー

学習言語能力を育てる教育」『創価大学通信教育部論集』

十九号

九月二十四日 講演「会話表現の仕方とバリエーションを
増やすためにどんな支援ができるのか」日野国際友好ク
ラブ

十月 学会誌への査読協力『言語政策十三号』日本言語政
策学会

十月七日 大学日本語教員養成課程研究協議会の秋季大会
（愛媛大学）を事務局長として運営

十一月五日 講演「立場や視点を変えることで異なる日本
語表現の教え方とは」日野国際友好クラブ

◇金子弘教授◇

四月三十日 「冒険少年」を読む『文学と宗教』研究会

講座担当

四月「ホフマン」『日本語学』二五卷四号、明治書院

七月「展覧」研究史『日本語の研究』第12巻3号、日

本語学会、武蔵野書院

九月二十日『浮雲』におけるバカリ・バカシ等の用法につ
いて『日本語研究法』近代語編』青葉ことばの会編、

おうふう

◇山岡政紀教授◇

一月三十日 口頭発表「慣習化した副詞句に見られる配慮

表現をめぐって」(第六回日本語コミュニケーション研究
会、筑波大学)

三月一日 「配慮表現の慣習化と原義の喪失をめぐる一考

察」『日本語コミュニケーション研究論集』第5号、日本
語コミュニケーション研究会

六月五日 「カモシレナイ」における可能性判断と対人配
慮『言語の主観性——認知とポライトネスの接点』(第

八章、小野正樹・李奇楠編) くろしお出版

六月四日 口頭発表「批判」の発話について」Ninth

International Conference on Practical Linguistics of
Japanese, at San Francisco State University, USA

(Co-Author: YAMAOKA Masaki, LI Qi-nan, MAKIHARA Tsutomu, ONO Masaki)

六月五日 口頭発表「日本語・英語・中国語の語彙 丁寧、に関する分析」 Ninth International Conference on

Practical Linguistics of Japanese, at San Francisco State University, USA (Co-Author: ONO Masaki, LI

Qi-nan, YAMAOKA Masaki, MAKIHARA Tsutomu)

八月二十六日 講演「カリブ海の真珠キューブへの旅」(創価大学夏季大学講座)

九月十日 口頭発表「配慮表現の慣習化と原義の喪失」

International Conference of Japanese Language Teaching at Bali Nusa Dua Convention Center, Indonesia (Co-Author: YAMAOKA Masaki, MAKIHARA

Tsutomu, ONO Masaki, LI Qi-nan)

九月十日 口頭発表「配慮表現から見た日本語の同一語句の繰り返し発話」 International Conference

of Japanese Language Teaching at Bali Nusa Dua Convention Center, Indonesia (Co-Author: ONO

Masaki, YAMAOKA Masaki, MAKIHARA Tsutomu, LI Qi-nan)

十月二十九日 口頭発表「日本語配慮表現データベース構築の中間報告」(第七回日本語コミュニケーション研究会、筑波大学)

十二月一日 共同パネル「日中韓の言語行動の比較から見

る日本文化の特質」(指定討論者、東アジア日本研究者協議会第一回研究大会、韓国仁川市・松島コンベンシア)

十二月十一日 日本語用論学会第十九回研究大会にて、加藤重広会長就任講演の司会を務める。

一月〜十二月 日本語用論学会運営委員として、学会運営、査読等にあたる。

以下、本学アドミッションズセンター長として執筆

十二月二十一日 「新AO「PASCAL」入試」が目指すもの(創価大学学士課程教育機構ニューズレターSEE D第十二号)

◇守屋三千代教授◇

六月十五日 論文「日本語話者が見た『ナル表現』」「日本認知言語学会論文集」第十六巻

八月二十日、二十一日漢日語言字検討会(延辺大学) 参加

八月二十一日 研究発表 「日本語の授受表現」

十二月十日 日本語文法学会、および編集委員会に参加。

十二月十六日、十七日 言語の類型的特徴をとらえる対照研究会(大阪市立大学)に参加。

四月より「日本語文法学会」編集委員、「日中言語研究と日本語教育」編集審議委員、「日本認知言語学会論文集」査読委員を務める。

◇山中正樹教授◇

三月二十日 論文「近代日本文学研究上の課題と第三項論の意義に関する私論(二)——(他者認識)と(世界像の転換)をめぐって」『日本語日本文学』第二十六号、創価大学日本語日本文学会

九月八日 研究発表「LMSを活用した専門ゼミにおける能動的・主体的学修活動推進の試み」(私立大学情報教育協会「平成28年度教育改革ICT戦略大会」(於：アルカディア市ヶ谷)

九月二十四日 講演「川端康成「十六歳の日記」を読む」(『文学と宗教』研究会 於：創価大学)

一月～十二月 日本文学協会 委員として、査読等に当たる。同協会運営委員として学会運営に当たる(一月～十一月)。

一月～十二月 川端康成学会 常任委員として学会運営に当たる。同学会事務局長(四月まで)・編集委員(四月～十二月)。

◇大塚 望教授◇

一月三十日 講演「NHK連続テレビ小説「あさが来た」と『土佐堀川』——広岡浅子の生涯」(『文学と宗教』研究会)

三月二十日 論文『くとする』における引用と決定・同定

の連続性——『くとする』と比較して『日本語日本文学』第二十六号、創価大学日本語日本文学会

十二月二日 講座「日本語検定一級に挑戦——自分の日本語を見直そう——」創価大学日本語日本文学会懇話会

◇山本美紀助教◇

一月九日 口頭発表「森敦「初真桑」のテキストの生成過程——改稿の変遷からみるテキストの「対話性」——(國學院大學國文學會一月例会)

三月二十日 論文「森敦「初真桑」テキストの境界性——生成過程にみるテキストの「対話性」——(『日本文学論究』第七五冊)

六月五日 口頭発表「森敦「月山」の本文——草稿と初出本文の比較にみる反復の理論——(全国大学国語国文学会夏季大会、青山学院大学)

七月三日 その他(文学講座「横光利一「夜の靴」の文学世界——師弟の絆——」(『文学と宗教』研究会、創価大学) 八月四日 口頭発表「高等学校における漢文教育についての考察——『搜神記』の「売鬼」を通して——(日中言語文化研究国際共同シンポジウム二〇一六国際学術検討会、中国・南京大学)

十月一日 その他(学会報告「シンポジウム報告」(「解釈」

九・一〇月号第六二巻通巻六九二集)

十二月十七日 ポスター発表「森敦文字の理論」(平成二八
年度科学研究費基盤研究(c) (二六k〇二四一七) 研究成
果報告会、國學院大學)

平成二十八年度 卒業論文題目

〔言語文化メジャー〕

〈金子ゼミ〉

英語教材におけるカタカナ表記の研究

インターネット用語の研究

ポスト「TOP」の歌詞研究

日本語の食感・味覚語彙の研究

翻訳を通してみた韓日表現の比較

〔表現文化メジャー〕

〈山中ゼミ〉

坂口安吾『白痴』論 — 〈語り手〉が暴く「伊沢」の欺瞞—

太宰治『桜桃』論 — 「桜桃」における諸問題とその〈語り

手〉—

太宰治『斜陽』におけるかず子の位置づけ—作品の成立を追

って

梶井基次郎「Kの昇天—或はKの溺死」論—梶井の作品史に

おけるその位置づけについて—

〔異文化コミュニケーション日本語メジャー〕

〈山岡ゼミ〉

日本語依頼表現の多様性と日本語教育における導入段階について

「ホビットの冒険」邦訳における、児童の心の響きと言葉の響きについて

「なんか」とは「フライヤー」として機能する副詞「なんか」を中心—

「なにげに」が持つ現代の意味と機能

前置き表現「くかもしれないけど」の対人配慮機能

日常会話で使用される共感表現の分析

日本語「逆に」の会話における意味について

新しい用法 断りの「大丈夫」の使用実態と意識調査

韓国と日本の日本語教育の違い

「くかもしれない」・「くかも」における対人配慮

若者言葉について

〈守屋ゼミ〉

「お疲れさま」という「あいさつ」

日本語における「美しい」とは何か

バーチャルリアリティーに生きる日本語話者

日本語の「恐怖表現」

日本の漫画が提供する視覚世界について—「ONEPIECE」か

ら読み解く日本の漫画―

「女・女性・婦人・女子・女の子の使い分け

文学教育の可能性と矛盾

オノマトペはどう日本人の感覚を刺激するか

日本人にとつての「笑い」―日本人は笑うのか笑わせるのか―

物語における日本語の語り―アフリカ・バントウ―諸語と

の対照比較を通して―

「なんか」とは何か

自己防衛としての配慮

〈大塚ゼミ〉

若者の敬語認識とこれからの敬語教育

日本語会話における「なんか」の意味・用法について―文

中に出てくるファイラー機能を持った「なんか」に注目し
て―

「やばい」がヤバイ!? 若者言葉「やばい」の現状と意味

拡大について

“了解”“OK”を表す語

若年層流行語「それな」の出自と使用実態

プロ野球選手の名前からみる名付けの変遷

敬語の使い分け意識についての研究

少年漫画・少女漫画における名づけの特徴

文末表現「みたいな」の分析

豚汁の読み方と語形のゆれ

流行歌における文末表現の特徴

おいしさを伝える言葉・表現の探究

大学生と中学生を比較した際にみられる、使用されるいじ
め言葉の種類と変遷

創価大学の学生による待遇意識

関西方言のイメージ調査―お笑い芸人との関連性―

「擬音語・擬態語＋つく」「擬音語・擬態語＋めく」に関す
る特徴および文法的分類

宮崎県の気づかない方言―なぜ方言だと気づかないのか―